

誰も信用できないから

「助けて」と言えない

——孤立無援をどうサバイバルするか

風間暁

特定非営利活動法人ASKテールコール薬物問題全国市民協会 社会対策部

信頼と期待をあきらめた

人を信じるって、むずかしいよね。いろんな大人からさんざん裏切られてきたんだから、今さら「助けて」なんて言ったってどうせ裏切られるだけじゃんって思っちゃう気持ち、痛いほどよくわかるよ。だって、ここまで誰も助けてくれなかったじゃんね。

しかも大人ってさ、子ども自身ももってる力を信用してくんないじゃん。「どうせ子どもなんだから」みたいな態度で、「守るのが大人の役目だ！」みたいに勝手なおせっかいはかり焼

いてくる。子どもを信じないくせに大人を信じろって、自分たちのこと棚に上げすぎなんだよな。それでどうやって大人を信じろって話。

私はね、親が最悪だったんだ。母親には虐待されてたし、父親はお酒絡みの事故で刑務所に行っちゃった。しかも学校では教師がウザかったし、警察とか施設も超ダルかったから、実際どこにも居場所がなかったんだよね。唯一の居場所は、ヤンチャしてる友だちのグループだった。だから、中一の頃には先輩の家とか夜の街を転々としながら、子ども同士で支え合って生きてた。でも中一だと社会のルールのせいでバイトできないし、家も借りられないから、結局は子どもが生き抜こうとしても、大人に頼るしかなくなっちゃうわけだ。それもぜんぶ大人たちが決めたルールのせいだと思って超イラついた。大人に頼る以外の方法が用意されていないわけじゃん。しかもさ、そのルール作る時にだって、子どもの気持ちとか意見なんて少しも入ってないわけでしょ。それ作った大人の顔も知らないし、そんな信用できないやつらが勝手に作ったルールを守らなきゃいけない意味がわかんないよね。「子どもは安全な場所で大人に保護されるべき」みたいな、そういうルールの一つひとつから感じ取れる「信用されていないのは私たち子ども」ってとこ、そこに気づいちゃってからは「バカにすんじゃねえよ」と思って、私はすべての大人に対する信頼と期待をあきらめた。

## そこしか選べなかった

だから私は、ルールを片っ端から破ってきたんだ。お金だってそこらへんの大人よりもたくさん稼いだし、それまでの人生で一番自由で、一番楽な日々だったよ。学歴がどうこう、立派な会社がどうこう言ってる大人って、マジでバカだなんて思ってた。自分たちと同じようにルールを破ってる大人なら少しは信用できるかもって思ったから、危ない大人たちとも付き合い合った。そしたら家にも身分証にも困らなくなつて、「あんなクソみたいな家に帰らなくていいんだ」「これは私が自分で選んだ居場所なんだ」って思えて、すごく安心したんだよね。

でも今思うと、私が生きてたそういう居場所だって、別に自分で選んだわけじゃなかったんだよ。ルールとか自分の気持ちの中でがんじがらめになつて、その時、そこしか選べなかっただけなの。選択肢が他になかった、ただそれだけだったんだよ。

拉致されたり、薬を盛られたり、ネイルガンで撃たれたりもしたから、実際は少しも安心安全な場所なんかじゃなかったしね。一〇代の青春ってこんなじゃないよなって、制服着て学校に通ってる楽しそうな年代の人たちを見ては、すごく切ない気持ちになることだってあった。本当は、生まれた家が安らげる場所だったら、一番よかったなと思う。でも、最低な家に、

最低の社会に、頼んでもないのに生まれちゃったのが私だった。親にも「産まなきゃよかった」って言われ続けて、誰にも存在を望まれてなかった。それがもう、どうしようもなくつらくて、「誰でもいいから助けて！」って感じだったんだけど、私が生きてた場所では助けてもらう見返りにセックスをしたり、お金を払ったりしないといけないしなかったんだよね。危なくない大人に助けを求めたらよかったんじゃないかって思われるかもしれないけど、その頃には普通に生きてる大人たちは私のことを「不良」って呼んで、めちゃくちゃ冷たい目で見てた。「自業自得」とか「身から出た錆」とか、いかにも大人っぽい説教をしてくるだけだね。

そうなるともうさ、死にたくなってくるじゃんか。地球上でひとりぼっちな気がしてきて。生きてる意味も理由もないし、わざわざ苦しい思いしてまで頑張って生きててどうすんだろうって思った。でも、そんな思いすら大人は否定する。「死にたい」って言うと、「そんなこと言うな」なんて言われちゃう。じゃあどうしろって言うんだよね。

### ドラッグに頼った

そんな時にね、私はドラッグに頼ったんだ。犯罪だろうがなんだろうが、どうでもよかった。

だって死んだってよかったんだもん、ドラッグを使ってどうなるかと、どうでもいいやって感じじゃん。実際、ドラッグは私の望んだ効果をくれたよ。寝たい時には眠くさせてくれて、遊びたい時にはハイにさせてくれた。それは、これまで出会ってきたどんな大人たちよりも確実に、信頼できるものだった。人間は最低だけど、ドラッグは最高だって思った。

でも、ドラッグを使い続けていると、今度は使わずに過ごす時間がとてつもなく怖くなってきてね。シラフになりたくないし、どんどん効かなくなってきたから、使う量が増えていくんだよ。そうするとお金もかかるし、使い方が派手になっちゃって、危ない大人とか友だちですら、一緒に遊んでくれなくなっちゃったの。それで気づいた時には病院の集中治療室入院してた。薬物依存症っていう病気になってたんだってさ。

でも、あの時ドラッグを使っていなかったら、いま私はこうやって、あなたに向けたこのメッセージを書いてなんかいかないわけ。つらすぎて、苦しすぎて、とっくに死んじゃったと思う。だからね、ドラッグを使ったことも、リスカしまくったことも、後悔してないんだ。それはね、これを読んでくれてるあなたのおかげでもある。だって、これ長いのにさ、こんなところまで読み進めてきてくれてるでしょ？ それが嬉しいんだ。私の投げたボールをキャッチしてくれてるあなたが、この紙の向こう側にいるんだなって感じるんだよ。私ひとりじゃないん

だな、つながってるんだなって思える。

でもね、だとしても、もつと健康に痛みを和らげる方法があったら、もつと楽に生きられる選択肢がああ時の私にあつたらよかつたなって。余計な苦労までしなくてすんだのになつて、そう思う気持ちもあるんだ。でもそれは、ああ時の私の責任じゃなくて、選択肢を奪つてきた大人たちの責任。だからね、私は私なりに、絶望的で理不尽な人生の中で、その時にできる最善を尽くしてきたんだって今は納得してるよ。

### あなたの責任じゃない

たとえば家族に傷つけられていたり、学校でひどい目に遭つていたりしたら、私はあなたに、とにかく自分のことを守ってほしいなつて思う。こんなこと言つたら私も大人たちに怒られちゃうかもしれないけど、太い血管さえ切らなきヤリスカしたつていいし、もし自分の部屋があるならひきこもつて登校を拒否したつていい。必要なら私みたいにドラッグ使つたつていいじゃん。そうするしかないほどの苦痛を与えられて、そうすることによってとりあえず死なずにすむんだつたら、延命のためにやつたつていいじゃんつて、私は思つてる。

でもね、それによってまた別のつらさが生まれることもある。ころないことを言われることもあるだろうし、無理やり自立を促されそうになったり、もしかしたら捕まって指導されたりもするかもしれない。

でも、それは、そういう方法を選んだあなたのせいじゃなくて、それらを「悪いこと」って決めつけて裁こうとする大人たちのせいだと私は思う。あなたに他の選択肢を用意しなかった大人たちのせい。あなたの権利を尊重しない、そんな大人たちの責任だと思うんだ。

本来なら、子どもにいろんな選択肢を用意することや、子どもの気持ちを聞いて話し合うこと、それでもって子ども自身に選択をさせて、その子どものお尻を拭くってとこまでが、大人の仕事なはずなんだよね。それに、子どもには「子どもの権利」が社会のルールで保障されて、それを大人が守らなくちゃいけないって決まってるんだけど、それがちゃんとできてる大人ってかなり少ないんだわ。そのことに気づいてすらいない大人だってたくさんいる。まあ、つまり大人が先にルールを破ってるんだよ。

だから、すぐくむずかしいことだとは思うけど、どうかあなたには、自分を責めないでほしいなって思う。責めるなら、あなたを傷つけてくる大人たちを責めてほしい。理不尽な目に遭い続けて、それでも耐え抜かなきゃいけないなんてどうかしてるけど、でも、そんな世の中でもあなた自身だけは、自分を全肯定してあげてほしいの。だって、もしあなたを助けてくれる

人がいま周りにいないんだとしたら、あなたしかあなたを守れないんだぜ。

あなたを苦しめるすべてのものを、子どものうちは大人のせいにしていいんだよ。理不尽な目に遭ってたら、あなたは怒っていいの。その想いはきつと、あなたの命を支えるエネルギーに変わる。

もちろん私も一緒にあなたを肯定するよ。だって、こんな社会で死なずに今日も息を吸って吐いている、ただそれだけであなたはマジですごいもん。よく生きてるよ本当に。

### ガチャを回しまくれ

私はね、誰のことも信用しないまま生き抜いてきて大人になったんだけど、結論を言うと、別に信じようとしなくても大丈夫だってことがわかった。信じようなんて無理に思わないほうがずっと楽。信じようと思ってる期待してみても、裏切られた時のショックがデカすぎて、その傷つきのほうがよっぽど大きかったしね。だったら最初から期待なんてしないほうがいいじゃん。これ以上しんどい思いなんか絶対やだし。

でもね、信じようなんて少しも思ってたのに、いま私の周りには、「気づいたら信じ

てた」っていう人がたくさんいるんだ。やばくない？ 信じるどころか全員を疑ってかかってきたのに、気づいたらこの底から信じちゃってんのよ。

これってなんなのかなっていっぱい考えたんだけど、結局、「たまたまいい大人に出会った」んだと思うんだ。期待すらしてなかったはずなのに、その人たちが行動とか結果で証明し続けてきたから、信用せざるをえなくなっちゃって感じなんだと思う。

なんていうか、人生ってゲームみたいな感じなんだよね。使えないハズレキャラしか当たらずに、「マジでクソゲーだな」って思いながら惰性でプレイしてきたけど、たまたまガチャで神キャラ引いた途端めっちゃ無双できる、みたいな。

私もガチャ運悪くて、運営クソだなんて思ってたし、スタート時に持ってたキャラとかアイテムは呪いの装備みたいなのかなかったから、もうゲーム自体消そうと思ってた。でも、たまたま一〇連回だけのジェムが貯まったから、どうせ当たらないと思いつつも回したらそこで神キャラ引いたんだろうね。こいつさえ手持ちに入れればバフかかるじゃん、みたいな。急にこのゲームが楽しく思えてきたぞ、ってね。

生きてさえいれば、ログインボーナスが貯まっていくから、目に見えないジェムのものでもガチャ回してくイメーজが近いのかな。ガチャって当たらないこともあるけど、当たることもあるじゃん。てか実際、確率的には絶対にそのうち当たるんだよね。何十連も回していけば、

必ず強キャラが手に入るシステムになってる。ゲームも人生も同じ。当たるのが遅いか早いか  
っただけなんよ。

つまり何が言いたいかっていうと、生きてさえいれば、そのうち絶対に最高の大人に出会う  
チャンスが巡ってくるってこと。どんな人間と出会うかって、そういうガチャみたいなものな  
んだよね。だから、親も含めて、自分を傷つけるクソみたいな大人は捨てて、「信じるしか  
いほど最高の大人」に出会えるまで、何度だってガチャ回したらいい。身近にいるのが信じよ  
うとするだけ無駄なほど最低なキャラだったら、出会いガチャでジエム貯めるのに時間使った  
ほうがお得じゃん？

もしかしたら私があなたにとつての激レアSSRの強キャラかもしれないし、この本にメッ  
セージ書いてる他の大人たちも激アツだから、あなたがこれを読んでいるいまがまさに、ガチ  
ヤ回してる最中ってことなのかもね。

だからさ、どうにか生きてガチャ回してよ。誰のことも信じようとしなくていい。同じ空の  
下で私みたいな大人も生きてるってことだけ、頭の片隅にでも入れといて。それでオッケー。

(かさま あかつき)